

第3回 北海道サイクルルート連携協議会アドバイザー会議 議事概要

1. 日時 令和4年3月14日(木) 14:00~16:00

2. 議事

- (1) 各ルート協議会R3年度の取組、R4年度の予定
 - 1) きた北海道ルート
 - 2) 阿寒・摩周・釧路湿原ルート
 - 3) トカプチ 400
 - 4) 富良野美瑛サイクリングルート
 - 5) オホーツクサイクリングルート
 - 6) 石狩北部・増毛サイクルルート
 - 7) 羊蹄ニセコエリアサイクルルート
- (2) ルート協議会の新規応募
 - 1) 石狩川流域圏ルート
- (3) 北海道サイクルルート連携協議会の取組報告
 - 1) 各機関の取組について
 - 2) ナショナルサイクルルートの指定について(情報提供)
- (4) アドバイザー会議委員からの助言等

3. 議事概要

- (1) 各ルート協議会R3年度の取組、R4年度の予定・・・資料1
 - 1) きた北海道ルート
 - ・コロナの影響により、てっぺんライドが2年続けて中止。次年度は開催したい。
 - ・自転車活用推進計画が昨年度3月に策定された。今年度4月以降、懇談会メンバーとして施策推進に取り組み中。
 - ・北海道運輸局と連携しながら、昨年まで5年連続で利尻島内サイクルバスを試行運行。昨年には70台の自転車がサイクルバスを利用した。次年度も継続したい。
 - ・地元のバス会社がサイクルバスを購入し、稚内-宗谷岬間で1日2往復の実証実験を9日間実施。このサイクルバス利用のサイクルツアー4本のうち2本を実施し、大変好評であった。次年度は7本のツアーを予定。
 - ・利尻島までのツアーも検討中。その対応に向けて、バス会社はさらにサイクルバス1台作成中。
 - ・R3年度にはサイクリスト応援カーの取り組みを実施。パトロールカーまたは観光協会の車両に空気入れや工具等を積載しサイクリストをサポート。昨年度は利用がほとんどなかったがR4年度も継続。

2) 阿寒・摩周・釧路湿原ルート

- ・ R3年9月16日から2泊3日で、効率的な環境整備のため阿寒摩周釧路湿原ルートの実走検証を実施。協議会主催及び開発局の協力で、走行環境や受入環境、景観等について把握。チェックシートで評価した結果、「ポテンシャルが高い。」「距離が300kmあるため上級者向け。」「景観はよいが、走行環境として危険箇所がある。」等の意見があった。
- ・ R4年度以降、初級者や中級者等も楽しめるコース設定や情報発信等も進めたい。

3) トカプチ 400

- ・ NCRに指定され問い合わせが多くあった。他県から視察等があり注目されている。
- ・ 走行環境部会、受入環境部会、PR誘客部会をそれぞれ適宜開催。
- ・ 走行環境部会では、すべての市町村に地域ルート募集を開始。併せて、情報発信ができるように準備中。
- ・ 受入環境部会では、十勝観光連盟を窓口として、休憩ポイントを募集。その休憩ポイントをマップに記載して案内することを予定。
- ・ PR誘客部会では、NCRやトカプチ400のロゴを使った商品を開発できるような仕組みを作りたい。
- ・ 音更町の新しい道の駅について、陸のゲートウェイとして設定を予定。
- ・ 4月27日に幌鹿峠で春の幕開けサイクリングを開催予定。今年で3回目の開催となり、開通前に自転車だけで峠を走行することができる。
- ・ 隣接するルートと連携しながら、北海道全域でサイクリストを呼び込みたい。

4) 富良野美瑛サイクリングルート

- ・ R3年度のルートを活用したイベントはほぼ中止。
- ・ ルート協議会としては、6市町村の自転車活用推進計画を策定。NCRを目指すことを再度確認。NCRを目指すにあたり、ルート設定やルート名等について議論を重ねていく。
- ・ 従来ストラバアプリで情報提供していたが、グーグルマップもHPに掲載し、よりサイクリストが使いやすく更新予定。併せて、コース紹介、注意喚起、レンタサイクル情報も掲載予定。
- ・ サイクルツーリズム北海道推進連絡会と連携し、今月上旬にサイクルモード大阪にて、作成したマップ等を用いながらプロモーションを実施。北海道のサイクリングは好評で、プロモーションと並行して受入環境整備も必要と感じた。
- ・ 自転車活用推進計画を広域で作成。次年度以降、関係自治体それぞれで個別の計画作成を予定。

5) オホーツクサイクリングルート

- ・ R3年度、協議会が関係するイベントについては中止。
- ・ H29年度から実施しているレンタサイクルについては、R3年度に最も利用が多か

った。R4年度は、貸出場所を増やししながらレンタサイクルの利用を図る予定。

- ・ ツアーやイベントを企画して、オホーツクの誘客につなげたい。
- ・ 独自の取組として、ナビタイムを活用して地域ルート15ルートを紹介。
- ・ モンベルと連携して、モンベル会員100万人へのPRを実施。
- ・ ジャパンエコトラックを利用して、体験メニューやサイクリングルート等を紹介。
- ・ R4年6月18日、19日にSEA TO SUMMITを開催予定。
- ・ 北見バスと連携し、自転車をそのまま積載する取り組みを実施中。現在は積載可能台数が2台だが、R4年度には器具を付けて4台に拡大したい。

6) 石狩北部・増毛サイクルルート

- ・ 今年度はハード面及びソフト面両面で整備を実施。ソフト面の2事業（サイクリングセミナー開催、マップ及びHPのリニューアル）については北海道観光振興機構の助成金を利用。
- ・ 基幹ルート及び地域ルートの案内看板を整備。
- ・ 受入環境向上のため、日本サイクリング協会石塚氏を講師としてサイクリングガイドセミナーを実施。1日目座学、2日目実践形式で全2日間。
- ・ 広域サイクリングマップのリニューアルを実施。2019年に日本語版及び英語版を作成したが、アドバイザー会議資料と整合性を図る等マップ情報を更新。道の駅等観光施設で配布中。
- ・ HPのリニューアルを実施。アーカイブに過去のマップを掲載。
- ・ R2年度にプロモーション動画を作成し、YouTubeでも公開。
- ・ R4年度はサイクリングセミナー中級編・上級編の開催を予定。
- ・ 増毛町では留萌開発建設部と連携し勉強会を開催。

7) 羊蹄ニセコエリアサイクルルート

- ・ YNCAのR3年度の事業として、サイクルモード東京及びニセコクラシック、ヒルクライムが中止。
- ・ サイクルルートの矢羽根及び案内看板設置は概ね完了。バリエーションのあるルート紹介ができる。
- ・ JCTAのサイクリングガイド講習を実施し、8名受講。来年度も開催予定。
- ・ ツアー商品の造成や販売実施など踏み込んだ内容の講習も実施。3社ほど、サイクリングツアーの検討に入った。
- ・ 周辺自治体に向けたサイクルツーリズムセミナーも実施。その結果、感触が良かった点や地元の課題等が把握できた。
- ・ 羊蹄ニセコワンダーサイクリングを開催し、40名が参加。50km、70km、100kmのカテゴリー別に、地元ガイドが少人数でエリアを案内。エイドを作らず地元カフェや道の駅等で休憩し、ガイドが普段走っているルートを紹介。
- ・ サイクルモードがないため、第一弾プロモーション動画を作成し、2月からYouTubeで公開。企業販促のため、スポンサー等に動画の利用を促している。

- ・ R4年度はガイド育成を継続予定。
- ・ 道内には JCTA の有資格者が 50 名ほどいるが交流の場がない。そのため、ガイド交流の場を検討中。
- ・ 会議のフォーマットとは別で、再来年に地元の特性に合ったマップを作成予定。その作成に向けて準備。
- ・ 交通安全啓蒙ポスターを作成し道の駅等で掲示したいと考えている。特に自動車に向けて安全な道路利用促進に向けたメッセージを発信したい。

(2) ルート協議会の新規応募・・・資料 2

1) 石狩川流域圏ルート

- ・ 石狩川流域圏ルートの概要及び石狩川流域圏会議について説明。
- ・ H25 年度にサイクリングコースマップ検討WGを設立し、ルートについて詳細に検討し、サイクリングマップ及び見どころガイドを作成。
- ・ R3 年度にはルートの上流、中流、下流ごとに走行会を実施。
- ・ 今後、他ルートとの重複区間の案内看板の表示方法について検討を進めたい。
- ・ かわたびほっかいどうと連携して魅力的なサイクリングルートにしていきたい。

(3) 北海道サイクルルート連携協議会の取組報告・・・資料 3

1) 各機関の取組について

① 商工会議所連合会

- ・ 情報発信を中心に取組を実施。
- ・ 昨年 7 月に第 17 回サイクルツーリズム北海道連絡会の会議を実施し、意見を交換。サイクルショップの部品不足状況、NCR 指定後のトカプチ 400 の状況、海外サイクリストのニーズ等について共有。
- ・ 3 月 5 日、6 日にサイクルモード大阪で出店。1500 名程度の来場者で冊子 1000 冊を全て配布した。北海道 8 ルートのポスターに興味を持ってくれる等、北海道は人気があった。特に富良野美瑛や十勝が人気だが、大阪から空港直行便がなく遠いことが課題。
- ・ 昨年 12 月台湾南部でイベントが開催され、北海道のサイクルツーリズム冊子 700 冊を配布。海外プロモーションも継続して実施予定。

② SBW 支援センター

- ・ サイクルラックの作成及び設置の協力等、SBW 活動団体との連携した取組を実施。
- ・ ゲストハウスと連携し、コロナ明けに向けてサイクルステーションやレンタサイクルを準備。
- ・ 他地域のレンタサイクル事業にも協力。
- ・ 北海道サイクリング協会と連携して、北海道一周サイクリングに協力。てっぺんライドが今年開催される場合、それと連携した北海道縦断ライドを企画したい。

③北海道運輸局

- ・北海道北見バスの事業が「地域の観光資源の磨き上げを通じた域内連携促進に向けた実証事業」に採択されコンテンツ造成や環境整備をメインに取り組みました。
- ・コンテンツ造成として路線バスと自転車を活用したモニターツアーを実施。
- ・環境整備として北見ターミナルでのレンタサイクル実施、バスへの輸送サービスを通年で実施。R3年9月17日から45日間の利用実績として、車内へそのまま積み込み利用1名、輸送バッグ利用2名、レンタサイクル利用49名。レンタサイクル利用の半数は道外客で概ね満足との感想であった。
- ・R4年度は観光の本格的な復興の実現に向けて、地域の稼げる看板商品の創出を図るための補助金制度があるので、活用されるよう働きかけをしたい。

④北海道（観光局・北海道観光振興機構）

- ・昨年9月バーチャル開催されたATWSに向けて取り組みを実施。輸送連携ではモデルコースを回り課題を整理した上で取組方針を検討。バス移動に関して宗谷の事例は先進的。
- ・ガイドツアーの支援として、サイクルツーリズムの進め方についてセミナーを計5回実施。
- ・公募形式で採択し、サイクルステーションを整備。
- ・ATWS2023のリアル開催が決定したこともあり、また、自転車は重要なモビリティであるので、引き続き観光振興機構と連携してサイクルツーリズムを推進したい。

⑤北海道（建設部）

- ・走行環境整備を主に実施。
- ・R3年度は、案内看板、矢羽根表示、注意喚起標識等の整備を促進。今後も関係機関と連携し取り組みたい。
- ・ソフト対策として各建設管理部で全道の取組紹介。自転車活用推進計画にもサイクルツーリズム推進がうたわれており、引き続き進めたい。
- ・各市町村の道路管理部署と連携して予算を取りまとめ、北海道の補助制度について情報提供を行っている。来年度も実施予定。

⑥北海道（地域政策課）

- ・第2期自転車利活用推進計画に基づく普及啓発について取り組み状況を紹介。
- ・公共交通連携のためウェブ意見交換を実施。バス協会等が参画している推進協議会でも情報共有。サイクルバス等取組についてSNSでの情報発信を実施。R4年度も継続。
- ・駐輪場情報を道内市町村から提供いただき、HPに一括掲載。集まっていない情報もあるため継続したい。
- ・サイクルイベントと連携してサイクルステーションを整備中。必要な備品を配布している。

- ・官民連携として、協議会のほか民間事業者、保険会社、大規模商業施設、道の駅などと連携し普及啓発イベントを各地で実施。コロナ禍で限定的だったが旭川のイオン等で実施。来年もイベント実施したい。イベントの中で利用実態調査をしているので取りまとめ次第共有したい。
- ・国の自転車月間に合わせてCM、YouTube等で情報発信をした。次年度以降も幅広い情報発信に努めていきたい。

⑦北海道開発局

- ・走行環境整備として、案内サインをデザイン。青地看板を基幹ルート、反転した白地看板を地域ルートの案内看板として作成。枝番を付けて地域ルートを案内するデザインを検討。石狩北部ルートでは整備済み。ルートの魅力を向上させるために地域ルートも併せて進めていきたい。
- ・コンビニ連携として、セコマと連携協定を結んだ。道路に穴を発見した際の情報提供や災害時の食料提供をしていただき、開発局から通行止め情報を共有。
- ・昨年8月より、全道7か所のセコマで軽量・折り畳み式のサイクルラックを設置。前後に休憩場所が少ない場所をピックアップし協力いただいた。コロナの影響もあり、1、2週間で1回程度の利用。利用者は飲み物や食べ物を購入し、休憩施設としての機能が発揮されていた。セコマの店長から、「サイクリストの人はマナーがよい、ゴミを散らかす方も多い中、紳士的で気持ちの良い方が多い。」という声を頂いた。セコマと調整しながら取組を継続したい。
- ・情報発信として、マップにセコマのマークを掲載できるように調整した。
- ・駐車場連携として、YNCAの特徴的な取り組みがあり、夏場の除雪ステーションを有効活用しサイクルステーションとして活用。R元年から実施しており、来年以降も継続したい。
- ・今後、これからどのような取組をすべきか項目を整理しつつ、引き続き取り組んでいきたい。
- ・石狩川流域圏ルート、晴れて新規ルートとなった。新しいパンフレットは調整中をとって紹介したい。

2) ナショナルサイクルルートの指定について（情報提供）

- ・NCRの情報、記者発表資料について紹介。
- ・トカプチ400、太平洋沿岸、富山が第二次NCRルート。トカプチ400に合わせて道内各ルートも一緒にPRできたらよいと考えており、手法について考えていきたい。

(4) アドバイザリー会議委員からの助言等

●加藤委員

- ・コロナ禍で難しい時期に様々な取り組みをしていることがわかった。
- ・大阪のイベントでは、土曜 5500 名、日曜 4500 名、計 1 万人来場。80%は自転車の試乗に来ていた。また、土浦のアウトドアのイベントでは、E-bike とグラベル試乗会を行った。
- ・地域の方が自転車に乗ることは雪がありハードルが高いため、レンタルバイクを導入して自転車の楽しみを体感することが必要。
- ・「レンタルバイクを導入したがメンテをどうしたらよいか。」「E-bike は高い。」等の自治体から相談をもらっている。観光にはとても良い地域であるため、自転車レンタルの仕組みを作っていけたらよい。

●高橋委員

- ・コロナ禍ではあるが、自転車熱は上がってきている。そのことを考えた際に、サイクリスト国勢調査の数値を見ると面白いことがわかってきている。加藤委員の話でもあるようにサイクリストの幅が広がってきている。多様化したニーズにどう応えていくかが課題で、案内やレンタサイクルの料金体系をどうするか考えなくては行けない。
- ・公共交通連携として、北海道はバスと連携しながら景色のよい遠い場所に行けるようになればよい。ツアー等も含めて考えなくては行けない。
- ・全体のルートについて、流域圏が正式に加入し、北海道のルートがほぼつながるような形。課題となっていた境界の部分のルート案内はしっかり実施する必要がある。
- ・爲廣氏がおっしゃったルート連携で全道に波及する効果を狙うために、全体のルートを考えていく。基幹ルートのレベルアップ、及び、サイクリストのニーズの広がりに対応した地域ルートの作成が必要。地域ルートは地元の方しか知らない宝がたくさんあるため、それを案内できる地域の状況がわかっているガイドが必要。

●宮内委員

- ・モデルルートのミッシングリンクが北海道の中央部、羊蹄ニセコ、石狩川流域圏ルートにある。完成形はネットワークなのでアクセス路を設けて結つけることが必要。ネットワーク化によって隣接するルートの相互誘客やルートの超広域化が可能になる。
- ・8つのルートは国交省が認定しているモデルルートに認定されており素晴らしいことである。ナショナルサイクルルート（NCR）はこのモデルルートから結果として選ばれており、ぜひトカプチ 400 をベストプラクティスとしてノウハウを共有し、他のルートも NCR を目指してほしい。そのためには内外に向けて NCR 指定を目指すという宣言をすることがまず必要。
- ・路面表示、案内標識が素晴らしい。1 から始まるナンバリング方式がユニバーサル

デザインとなっている。ルート名が長ければ走行中にルート名を判読できない。また地図が頭が無ければ地名を読んでも情報にならない。台湾や欧州を走行した際は案内看板のルート番号をたどって進路を把握した。欧州や台湾からのインバウンド客はこのナンバリング方式になじんでいるので、いろいろな地域で北海道方式が規範になればよいと思っている。

- ・ 残念ながら鉄道との連携が足りない。サイクルツーリズムと公共交通の親和性は鉄道が一番なので鉄道との連携を目指してほしい。
- ・ コンビニ連携については会議でお願いしたことが実現しつつある。北海道はセコマがライフラインなので、さらなる連携の促進がサイクリング時の安全安心にもつながる。
- ・ インバウンド誘客策だが、アジア最大の自転車見本市である台北サイクルが今年リアル開催できたため、次年度から台北サイクルでもPRを実施すると効果的である。
- ・ ガイドツアーについては、Instagramの、広告ではなく投稿が効果大きいという。来た人に投稿してもらえるような仕組みを作ると良い。

●屋井委員

- ・ 非常によく取り組んでいただいている。もともと良い地域がさらに魅力的になる。
- ・ きた北海道は休憩施設の整備が課題だったが、休憩施設間が20km未満となっており、努力してもらっている。
- ・ 過去に申し上げていることだが、板の看板を付けていただきたい。今までの経緯でお金がかかる等ハードルはあるが、視認しやすい。NCRをスタンダードと考えるのであれば取り組んでほしい。NCRのロゴを入れた看板についても、シールではなく平たい平面看板であるとよい。
- ・ 石狩の看板は小さいのもう少し大きくてもよい。場所によっては多少遠くから視認できるようなものであってもよい。
- ・ 自動車注意の看板は誤解される可能性あり。自転車に対して自動車注意と伝えているように見えるため、伝え方を検討する必要がある。
- ・ 石狩川流域圏が加わったことに関連し、河川局では河川空間での自転車の走行環境をどう作るかという検討を始めている。例えば琵琶湖と同じように、札幌等大都市では自転車歩行者専用道路にする等の取組を考えてもいいかもしれない。魅力ある河川に訪れるための手段の一つが自転車。河川サイドが自ら様々なことに取り組んでもよい。
- ・ 北海道は開発局で一体的に取り組んでいるが、地方自治体との連携方法について全国では議論になっている。全体としてのルート指定やどのように整備して利用するか等が課題かもしれない。
- ・ 魅力的なルートが増えることを期待している。

●萩原委員（欠席のため事務局よりコメントを紹介）

- ・今後ユーザー側の視点に立った検討が必要。
- ・登山用の携帯アプリヤママップでは、ルート上の人数等の状況、危険箇所等リアルタイムの情報を把握できる。また、利用者同士すれ違うと音が鳴る。協議会でこのようなサイトを作ることができるとうれしい。利用者間の交流が生まれるとよい。

※事務局

- ・加藤委員から、北海道には冬があり、1台購入するよりもレンタルがあつていることを、E-bikeも含めて切り口をご示唆頂いた。
- ・高橋委員から、年齢層ニーズが多様化しているというお話頂いた。ヘビーユーザー、ライトユーザーへも広げていくべきであること、公共交通もうまく連携していくべきであること、そして、全体ルートとしてつながっていくことが大事で、ルート案内が重要であること等、地域ルート、地域スポット、ガイドの育成も含めてご指摘いただいた。
- ・宮内委員から、8ルートのミッシングリンクのつなぎかた、アクセス路、公共交通JRとの連携が足りないことをご指摘いただいた。JRもハードルがいろいろあるが、相談しながら何かできないか検討を続けていきたい。
- ・屋井先生からもあつたように、コンビニ連携で休憩施設埋まってきたが、足りないところもあるので引き続き進める。看板について、NCR委員会でも指摘があり、板で整備できたらと思っている。流域圏は、河川管理用道路を有効活用しているところ。公共空間の有効活用する取組を進めている。道路法上の指定が安全上必要であれば考えなくてはいけませんが、管理用通路として模索している。河川部隊に相談しながら検討を進めていきたい。課題が見えていない部分もあるかもしれないので、引き続き勉強をしながら検討したいと思っている。
- ・萩原先生から、ヤママップを紹介いただいた。ユーザー視点に立ったものを勉強し、考えていくことができたらと思っている。